

水稲直播栽培の普及に想う

戦後まもない頃、多収穫を唱える多くの稲作技術が流行した。直播栽培も麦間直播が試作され、試験を担当したものである。当時、雑草対策は盲除草や石灰窒素利用に頼っていたが、雑草に悩まされ、実用化できなかった。

熊本県球磨地域では昭和38年頃から、人力播種機利用の湛水直播栽培が普及ををはじめ、ピーク時には1,800haとなった。この地域の成功は県下に刺激を与え、昭和48年には、乾田直播も合せ2,800haの普及をみた。

この時期、目覚しい普及をみた原因は、乾田、湛水直播ともに栽培技術が確立し、移植栽培にまさる収穫が得られたこと。また、除草剤の開発、普及により雑草防除の心配がなくなったこと。さらに、コンバインなど、タイミングのよい収穫機械の普及が上げられる。

このように普及拡大の途上にあった直播栽培も、水稲田植機栽培の基準（昭和44～45年）がつくられ、田植機栽培が普及するにつれて、直播栽培は減少してきた。現在、水稲直播栽培の面積は熊本県560ha、九州全域で1,100haに過ぎない。

直播栽培から田植機栽培へ移行した農家の意見としては、出芽、苗立ちの不安。除草剤散布の適期を逸することの不安をあげる。一方、直播栽培を続けている農家の声は、移植栽培に比べて良質、多収となり、しかも超省力（不知火干拓地では、収穫までの労働時間は13～14時間／10a）が魅力であるという。将来、大規模経営対応の稲作技術の一つであると考えられる。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会 理事 九州支部長 高岡留吉〕

目次 (第22巻 第11号)

巻頭言

水稲直播栽培の普及に想う……………	1
＜財）日本植物調節剤研究協会理事 九州支部長 高岡留吉＞	

アメリカにおける雑草防除の現状と 動向(1)……………

＜宇都宮大学雑草防除研究施設 竹内安智＞	
1. 最近の農業事情……………	2
2. 重要雑草とその被害……………	5
3. 主要作物の雑草防除……………	5
(1) トウモロコシ……………	5
(2) ダ イ ズ……………	9

昭和63年度春夏作野菜花き関係除草

剤・生育調節剤試験成績概要……………	17
＜財）日本植物調節剤研究協会 技術部＞	

昭和63年度水稲・畑作関係生育調節 剤試験成績概要……………

＜財）日本植物調節剤研究協会 技術部＞	
------------------------	--

昭和63年度畑作関係除草剤試験成績 概要……………

＜財）日本植物調節剤研究協会 技術部＞	
------------------------	--

植調協会だより……………	52
--------------	----